

行政視察報告書

委員会名	議会運営委員会
派遣委員	副委員長 匹田 郁 委 員 安東 鉄男 委 員 河野 巧 委 員 匹田久美子 委 員 梅田 徳男 委 員 戸匹 映二 委 員 大塚 州章 議 長 内藤 康弘
日 程	令和7年1月28日（火）
視 察 先	愛媛県西予市議会
調査項目	議会改革及び議会用タブレット端末の具体的な運用方法について

1. 調査目的

白杵市議会において、令和6年9月定例会から議会タブレット端末の運用を開始し、円滑かつ効果的な取り扱いについて、協議検討を行いながら活用を図っているところです。タブレット端末の有効活用及び今後の議会改革に向け、いち早く議会用タブレット端末を導入し活用を図り、また、議会改革を推進している愛媛県西予市議会への行政視察を実施しました。

2. 調査内容

（1）視察先の概要

愛媛県西予市は、愛媛県の南西部に位置し、人口が約3万5千人、面積が514.34km²で、平成16年4月1日に5つの町が合併し誕生した市です。西には宇和海に面して美しいリアス式海岸が広がり、東は四国カルストの山々を隔て高知県に接する広大土地を有し、第1次産業を中心に発展を遂げてきました。海拔0から1,400mまでの海・里・山に多様な生態系や伝統・文化が存在し、地域資源と市民が一体となりジオパーク活動を行っており、市内全域が、四国西予ジオパークに認定されています。取り組みが行われています。

（2）調査結果

① 議会改革について

西予市議会では、議会改革として、YouTube 配信、電子採決の導入、議場内のモニター設置、オンライン会議システムを行っています。

電子採決及び議場内のモニター、会議システムについては、議会用タブレット端末と連携が可能となっており、また、傍聴席で電子採決の確認や議案書等の資料閲覧ができ、議会運営の電子化が図られていました。

② 議会用タブレット端末の具体的な運用について

西予市議会では、平成28年8月に議会用タブレット端末を議員21名分及び事務局5名分の計26台を導入しています。タブレット端末は、議員活動でも活用可能なため、通信費の一部を議員個人が負担し、故障時の対応も補償の部分以外は、議員負担としていました。

会議システムはSideBooks、グループウェアはサイボウズofficeを使用していました。会議システムは、本会議等の会議で使用し、議案書や資料等を閲覧するとともに、ファイルごとにアクセス権限を付与することが可能で、開示可能ファイルは、ダウンロード及び印刷を許可していました。また、グループウェアでは、各種通知などの議員への連絡の電子化にあわせて、全議員のスケジュール管理を行っていました。

会議システム及びグループウェアを活用することで、予算書・決算書を除くすべての資料の電子化と、議員への連絡手段の改善が図られ、議会事務局の印刷が6割削減されるなど効果もでており、また、平成30年7月豪雨時において、災害現場写真の情報共有や議員の安否確認を行うなど、災害時にも活用されていました。

今後のさらなる活用としては、これまでの活用方法の推進とともに、議員のスキルアップやオンライン会議システムの運用に取り組みたいとのことでした。

3. 委員会の所感

西予市議会の議会改革に関しては、オンライン会議の活用については、委員会等で実施の有無に関わらず、感染症の蔓延や大規模災害時に交通手段が寸断された場合などに向け、活用体制が整備されており、臼杵市議会でも対応が必要だと感じました。ただ、電子採決については、議会の運営方法が大きく異なりこともあり、臼杵市議会での導入の整理が必要だと感じました。

西予市議会では、平成28年度に愛媛県内でもいち早くタブレット端末を導入したこともあり、活用が進んでいたため、様々な事例を聞くことができ参考になりました。特に、災害時での活用については、臼杵市議会でも活かすことができたと感じました。本会議など、議会での使用については、臼杵市議会は他市等を参考に準備し導入したこともあり、順調に運用できていると感じました。

タブレット端末の利活用については、議員ごとの個人差があるとのことでした。臼杵市議会でも同様な状態であると思われるので、理解度に応じた適切な研修などを行うことで、より積極的な活用を図る必要があると感じました。

4. 視察状況

